

報 告 書

開催日時	平成 25 年 7 月 22 日（月）午後 1 時 15 分～2 時 30 分	
開催場所	米崎保育園	
出席議員	挨拶	佐藤信一班長（教育民生常任委員会委員長）
	司会進行	佐藤信一
	報告者	及川修一
	記録者	鵜浦昌也
	議員	松田信之、大坪涼子、伊藤明彦
参加人数	保育士 9 人	
主な要望 ・提言等	<p>1. とにかく保育士が足りない。年度当初の 4 月はどうにか保育園を始められる体制が整うが、その後に子どもが入園してくると慌てて保育士を探すという状況。公立と違い、保育士が休みをとると代わりになる先生がいない。</p> <p>2. 公立と法人立で経営が違うのは理解できるが、公立の施設はトイレ掃除もシルバー人材センターに依頼している。法人立は人手が足りないところを保育士が行っている。</p> <p>3. 公立の子どもたちは市の公用車を利用できるが、法人立の子どもたちは利用できない。保育士が市外へ研修に行く際も、公立の保育士は公用車で行くことが出来て、法人立の保育士は乗れない。せめて子どもたちは公立も法人立も平等にお願いしたい。</p> <p>4. 園児の中に震災で親を亡くした子もいるので、親子遠足を中止している。</p> <p>5. 震災後に仮設住宅で生活しているが、当初、市は防災集団移転が早く進むような説明だった。しかし、ここにきて自力再建の家が増えてきており、なかなか防集が進まない状況に不安を感じている。</p> <p>6. 保育士が足りない状況だが、資格を持っていてもほかの仕事に就いている。</p> <p>7. 現在 60 歳だが、これからも保育士として体が許す限り働きたい。今後、家を建てたいと思っており、年齢で切らずに働かせてほしい。</p> <p>8. 市は公立の保育士を募集し、5 年間の雇用を保証している。仮に、法人の臨時保育士が公立にいつてしまうと、法人立保育園の保育士がますます足りなくなってしまうことが心配。</p> <p>9. 今泉保育所を再建するようだが、気仙町には長部と 2 つの保育所を置くのか。ますます保育士が足りなくなるのではないか。</p>	

	<p>10. 震災前に高田町の森の前地区に住んでいたが、その地区は以前の土地区画整理事業で減歩された。震災後再び減歩されるようだが、2度目の土地区画整理事業なので減歩率を考慮してほしい。先が見えず不安。</p> <p>11. 今後、市役所など公共施設を整備する際、津波がきても安心、安全な場所に建ててほしい。</p> <p>12. 保育士の中には被災した広田保育園で勤務しながらいない人もいる。一日も早く安全な場所に建設をお願いしたい。震災時には中学生が子どもを背負って裏山に避難したが、今は中学校もなくなり、有事の際に保育士だけでは不安。</p> <p>13. 高田小学校前に災害公営住宅が建設されるようだが、あの地区は浸水区域だったはず。例え盛土したとしても、入居したいと思っている人がいるのか。</p> <p>14. 道路に土地を提供した人が、整備後に土地提供者がその道路に出るのに回り道をしなければならなくなった人がいる。</p> <p>15. 子どもを広田保育園に預けており、被災後に施設へ行って状況を見た。今でもあの場所で保育が行われているのかと思うと、同じ保育者として大変だと思う。震災時には中学生に助けもらった。今は周囲に何もなくなり保育園だけポツンとある状況。裏山に階段を設けてもらったが、全員が避難するとなると大変。安全に避難できるよう早急に整備してもらいたい。</p>
<p>所 感</p>	<p>○佐藤信一 最初の訪問となったが、保育士の公立と法人立との待遇の違いの改善や、保育行政全般について現場の声を聞くことができ、意見交換もなされた。この企画についても感謝するとの声も聞かれ、良かったと感じた。</p> <p>○松田信之 課題や状況が聞けて、大変良かった。</p> <p>○鶴浦昌也 保育の現場で保育士不足が顕著であることを実感した。保育士の配置状況について、市当局は「国が示している基準を市内すべての施設で上回っている」と議会答弁しているが、実際の現場とのとらえ方に温度差があるように感じた。また、公立と法人立の保育施設でさまざまな格差があることも分かり、多くの改善すべき点が理解できた。</p> <p>○大坪涼子 米崎保育園は被災していませんでしたが、震災時市内の保育現場にいた職員も多く、子どもたちの震災時の大変さを知ることができました。職員の方々から保育現場の保育士不足、市立と法人立の違いなどの意見や、市の復興の様子などについても質問があり、初めて直接職場を訪問しての議会報告会でしたが、よかったですと思いました。職員の方々も議会</p>

を身近に感じたようでした。

○及川修一

多くの保育士さんが参加してくれた中で、保育士不足の現状や法人立の保育園と公立保育所の格差などが訴えられた。

保育士の中には被災された方も複数いて、仮設住宅から高台移転をする希望をしているが、なかなか先が見えないことなど、個人的な思いも聞くことができた。

○伊藤明彦

これまでの議会報告会とは趣が違い、テーマを決めて開催したのが良かった。公立と法人立の格差を感じた。

東日本大震災復興対策特別委員会

委員長 千 田 勝 治 殿

平成25年8月12日

陸前高田市議会議会報告会開催要綱第10条第1項の規定により提出します。

平成25年度議会報告会教民班

班 長 佐 藤 信 一

印